

(学校番号255)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【柏陽中学校】

| | | |
|----------|---|---|
| ① | 今年度の課題と授業改善策 | |
| | 学習上・指導上の課題 | 授業改善策【評価方法】 |
| 知識・技能 | <p><学習上の課題> ・学習に対して興味・関心はあるが、根気よく定着するまで取り組むまでは至っていない。</p> <p><指導上の課題> ・タブレット等のICTを利用した授業に取り組むつつあるが、まだ実践の積み上げは少ない。</p> | ⇒ <p>・計画的に語彙・漢字練習をして漢字の反復・習熟を行う。</p> <p>・ドリルパークやスタディサプリを活用して、学習履歴を確認し、解き直し等の補習を行う。</p> |
| 思考・判断・表現 | <p><学習上の課題> ・思考が複雑な問題に対し、自分なりの考えを持って取り組むが自信を持って説明したり、発表したりまではいかない。</p> <p><指導上の課題> ・深い学びにつながる課題への取り組みが不十分であり、それらの共有の仕方にもまだ研究の余地がある。</p> | ⇒ <p>・根拠を明確にして自分の考えを導き出し、他者に伝える場を設定する。</p> <p>・他者の考え方を考察して、互いに考え方を深めていく場を設定する。</p> |

| | |
|----------|---|
| ② | 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察) |
| 知識・技能 | <p>国語、数学ともに平均正答率は半数を超えている。国語に関しては「我が国の言語文化に関する事項」に関する問いは高い正答率であった。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」について県・全国と比較して劣っている現状である。特に「短歌に用いられている表現の技法の説明」の問題に改善が必要である。また、自分の考えをまとめたり、説明することに関して授業の中でさらに取り組んでいく必要があると考察する。数学に関しては「データの活用」で県・全国の数値を超える正答率であった。今年度より力を入れたICTを用いた授業の効果が出てきていると推測される。「確率」の問いに関しても県・全国平均を超えている。</p> |
| 思考・判断・表現 | <p>国語は「読むこと」に関する設問で課題がみられる。文章を読み解き、筆者の意図をくみ取ることが苦手な生徒が少なくない。朝読書や授業の中で文章を読む力や推察する能力を養っていききたい。数学は「知識・技能」は県・全国とほぼ変わらないが「思考・判断・表現」の数値は県・全国との差異がある。身についた学力や既習事項を用いて新しい課題にチャレンジしたり、自分の考えを他者に説明したりする能力を養っていききたい。</p> |

| | | | |
|----------|-------|--|---|
| ③ | 中間期報告 | | 中間期見直し |
| | 評価(※) | 授業改善策の達成状況 | 授業改善策【評価方法】 |
| 知識・技能 | B | <p>ドリルパークやスタサブを用いて、自分の学力に見合った基礎学力の定着の学習を行うことができた。定期テスト後には解き直しを行い、反復・習熟に取り組んだ。また、授業の中で積極的にタブレットを用いて、ICTのスキルアップを図り、共同学習にも取り組むことができた。</p> | 変更なし |
| 思考・判断・表現 | B | <p>自分の考えをしっかりと説明する場面を意図的に設定し、ミライシードやオクリンク等のICTコンテンツを用いて、主体的に対話的に授業に参加できる生徒が増えてきた。</p> | <p>導入されたオクリンクプラスを徐々に用いて、授業の中で自分や他者の意見を共有できる場面を増やしていく。</p> |

| | |
|----------|--|
| ④ | さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察) |
| 知識・技能 | <p>数学の基礎の計算については一定の向上がみられたものの、応用問題や複雑な思考を要する問題についてはつまづきが見られた。基礎基本をしっかりと定着させながら、授業の中で答えを覚える学習から本質を理解して考える活動、自分で主体的に学習に取り組む習慣を養える授業改善が必要となる。</p> |
| 思考・判断・表現 | <p>既習事項をいかして結果を推測しながら問題を解決していく力を今後いっそう向上させられるような授業の改善が必要である。また、異なる考え方をもちた人と協議して解決に向かう姿勢を養い、課題に対して粘り強く取り組む力を高めていきたい。</p> |

| | | |
|----------|-------|---|
| ⑤ | 評価(※) | 授業改善策の達成状況 |
| 知識・技能 | B | <p>ICTをふんだんに利用した授業実践を校内研修のテーマとし、各教科担任がそれぞれの授業の中で、様々な実践を行った。学校評価のICT利用満足度の値も90パーセントを達成し、各授業の中でTeams、オクリンクプラス、エクセル、スタサブ等のコンテンツを用いて、生徒ひとりひとりの理解に効果のある授業を構築していった。授業の自己評価をタブレットを用いて、蓄積されたデータを振り返り等にも役立たせることができた。</p> |
| 思考・判断・表現 | B | <p>学校全体として、基礎基本の定着をねらい、授業のベクトルをゆっくり、反復学習に重きを置くことで、生徒の理解と達成感を促すことには一定の進歩がみられたが、より複雑な内容に取り組む経験が浅くなる傾向があった。難しいことをやらないのではなく、難しい内容をより簡単に楽しく取り組めるように授業改善していく必要がある。また、個人の活動になりがちな活動も「じ・しゃ・く」を意識して、共有を図りながら授業を展開することがいっそう求められると考えている。</p> |

| | |
|----------|--|
| ⑥ | 次年度への課題と授業改善策 |
| 知識・技能 | <p><次年度への課題> ・いっそうの基礎基本の定着と生徒の達成感を追求した授業の工夫と教育課程の改善。 <授業改善策> ・ICTを利用し、個別最適化を意識した「自分に合った学習」が可能となる授業の改善。</p> |
| 思考・判断・表現 | <p><次年度への課題> ・授業での学習の質の意識改革「覚える」から「考える」への転換。 <授業改善策> ・タブレット等のICTを利用して考えたことや思ったことが他者と共有でき、評価されるような授業改善</p> |

※評価
 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)